

東京を中心とした首都圏のもつ首都機能，都市機能を含む諸機能の過度な一極集中を是正させるため，地方圏への分散を図る多極分散型の国土形成を目標とした四全総の目標年度である西暦2000年まであと5年である。

本書は首都圏がもっている諸機能を分担させる受け皿の一つとして，最も集積度が高い関西圏と中部圏の相互補完と連携というケーススタディーについて述べたものである。

両地域の社会・経済から歴史，環境などの指標を用いた分析結果および外国の事例等を用いて，交流と連携の必要性および可能性を提案した広域交流圏の構想をはじめ，実現における問題点と可能性について大学の研究者や官庁の実務者たちがそれぞれ違う方向から話し合い，さらに専門家による具体的な方法論および効果について検討した小論文によって構成されている。

広域交流圏は従来のさまざまな制約から脱皮し，既存の行政区画や地方圏という枠を越え，地域間の広い範囲での交流によって形成される。この広域交流圏の構想に基づいた「中央広域圏」の形成という提案はやや強引であるが現実感がある。【1】

広域交流圏構想

～関西・中部の連携による多地域同時活性化への道

広域交流圏研究会・三菱総合研究所社会デザイン室 編著

A5判・207ページ。
定価3700円（税込）。
平成6年9月9日初版発行。
同年10月11日受付。
〒100 東京都千代田区
大手町2-3-6
三菱総合研究所出版編集部発行。
Tel. 03-5256-2572



このところ国内だけでも釧路沖地震，北海道南西沖地震，北海道東方沖地震，三陸はるか沖地震そして兵庫県南部地震と立て続けに被害地震が発生している。その度に地震発生メカニズムについて解説されているので，新聞やニュースなどでも地震発生の源である断層のことを目にする機会が非常に多くなっている。果たして断層についてどれだけのことがわかっているのだろうか。

本書は断層を中心として，津波，防災といった地震に関連した事柄を，基本事項から最新の研究まで広く網羅しているが，かといって肩肘の張った本ではない。元が教養学部の講義であるだけに，語りかけるような口調で，我々にとって身近な地震がどのように起きているかを教えてくれる，格好の地震入門書である。主な参考文献については，その内容についても簡単に紹介されており，さらに深い知識を得るための道しるべとなる。

昔から「地震，雷，火事，親父」と恐ろしいものの筆頭にあげられていた地震だが，震動を感じたときに断層の動きまでもイメージすることができるようになれば，きっと冷静に対処することができるようになるだろう。【さ】

地震と断層

島崎 邦彦・松田 時彦 編

A5判・239ページ。
定価3502円（税込）。
平成6年10月20日初版発行。
同年10月31日受付。
〒113 東京都文京区
本郷7-3-1
東京大学出版会発行。
Tel. 03-3811-8814

